

小型容器用蛍光式DO計 DAF-1132型

フラスコ、シャーレ、マルチプレート、小型培養容器等の培養液のDOを計測

装置構成：本DO計、蛍光パッチ付培養容器、パソコン、USBケーブル

蛍光パッチ付き培養容器：ご使用の培養容器に蛍光パッチをつけます。蛍光パッチはオートクレーブまたはガンマ線滅菌可能です。

使用法例

① 培養中の容器のDO測定

連続測定との比較例 →

レポート参照先



② Tフラスコ k_La 測定

T-25フラスコの k_La は37°C液量

6mLで $7.5h^{-1}$, 12mLで $3.6h^{-1}$ →



仕様

- ・ サイズ：W200×D160×H55mm
- ・ 応答速度：オフライン計測では90%応答約20秒
- ・ 測定範囲：0～空気飽和
- ・ 使用湿度範囲：90%以下



藤嶋昭 東京大学特別栄誉教授・東京理科大学栄誉教授 監修

発明・発見
シリーズ
006

手洗いで死者激減・・・なのに

コロナ禍で、手洗いうがいが奨励された。そんな簡単な行為が有効なのかと疑問に思うが、その有効性を証明し、普及に当たったが認められず、非業の死を遂げたのが、センメルヴェイス・イグナーツ (1818～1865：ハンガリー) である。

センメルヴェイスが勤務していたウィーン総合病院では、産褥熱（産後何らかの感染で高熱が出る）による産婦の死亡が10%以上あり、街の助産婦に比べて3倍にもなっていた。その対策として配下の医者に、産褥熱により死亡した遺体の解剖台の消臭に有効だったさらし粉（次亜塩素酸カルシウム）で手を洗わせることによって、死亡率を1/10以下にまで激減させた。この結果を他の医者に手紙で知らせ、著作等で塩素による手洗いの普及活動をしたが、その時代に微生物汚染の概念がなかったため、かえって高貴であることを自認している医者たちは自分の手が汚れていると指摘されていることに反発した。センメルヴェイスは病院を追い出され、果ては精神病院に送り込まれて虐待され、47歳で非業の死を遂げている。その後パスツールによって病原菌と病気の因果関係が明らかになり、微生物による汚染の概念が一般化した。死後「母親たちの救い主」と呼ばれ高い評価を得たのに、生存中には自説を非難され、功績を評価されることがなかったのは歴史の皮肉である。新たな説を受け入れない現象は、センメルヴェイス反射として知られる。

参考文献：https://ja.wikipedia.org/wiki/センメルヴェイス・イグナーツ



開発・製造

ABLE エイブル株式会社

www.able-biott.co.jp

・カラー版配信
・お問い合わせ
フォーム



お問い合わせは、株式会社バイオットまで

販売元

Biott 株式会社バイオット

本社 〒162-0812 東京都新宿区西五軒町 6-10
TEL：03-3260-0415(代) FAX：03-3260-0407

大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3
TEL：06-6398-1260 FAX：06-6398-1261